

幾代会観察会(2021年4月)のまとめ

- ◆日時 2021. 4. 11 (日)
- ◆散策場所 羽村草花丘陵
- ◆ポイント 浅間岳から多摩川の流れとニリンソウを観察
- ◆散策ルート 羽村駅～羽村堰下橋～羽村市郷土博物館～羽村神社～浅間岳(昼食)～羽村市郷土博物館～羽村堰下橋～根がらみ前水田～踊子草公園～禅福寺～羽村駅
- ◆参加者 石川・宇津木・太田(コース案内)・岡・須崎・中部・越前(記録)



根がらみ前水田で集合写真

◆感想 春本番の4月半ば、多摩川の河原や草花丘陵の樹木の芽吹きや数多くの野草の開花を見に行きました。又、午後には根がらみ前水田に咲く35万球の咲きそろった鮮やかなチューリップを見ることができてラッキーでした。東京ドーム1.2倍の広さの水田一面に赤や白、黄色と色鮮やかに咲きコントラストがトテモ綺麗で気持ちが晴れ晴れとなりました。コロナにも関わらず久しぶりに幾代会の楽しい仲間の顔を見ることが出来て嬉しかったです。

◆観察植物

①トキワマンサク(トキワマンサク属)

禅林寺には高さは背丈以上で長さが5m前後の立派な生け垣があり、新芽が赤く間からピンクの紐状の花が出て開花

②ヤエザクラ (サクラ属)

禅林寺境内で濃いピンクの花が見ごろ。中部さんから品種は関山で桜の塩漬けにすると説明を受ける。太田さんからは近所の和菓子どころ山田屋さんでは桜サブレが名物とホットな説明を受けた。

③ムクロジ (ムクロジ属)

羽村堰下橋の右岸の下流側に昨年の実が枝の先端に残っている。

④ウワミズザクラ (サクラ属)

多摩川の河川敷に枝を広げ白いブラシ状の 5 弁の花が多数咲いていた。バラ科はガクと花弁が 5 枚でおしべは 10 本～多数で托葉が有るものを指す。

⑤オニグルミ (クルミ属)

枝先に展開し始め纏まった新葉と紐状の雄花がぶら下がり遠目にもオニグルミと分かる。

⑥ヤセウツボ (ハマウツボ属)

外来種、下見時には気づかなかった数本の本種が土手にニョキニョキと出ていた。葉緑素を持たない寄生植物でマメ科のクローバに寄生していた。

⑦マルバウツギ (ウツギ属)

草花丘陵ハイキングコースの登り口の左の崖の上から丸みを帯びた対生の葉の間から蕾が覗く。太田さんから丸くないと言われ須崎さんは他のウツギに比べると丸いと説明有。

⑧ムラサキケマン (キケマン属)

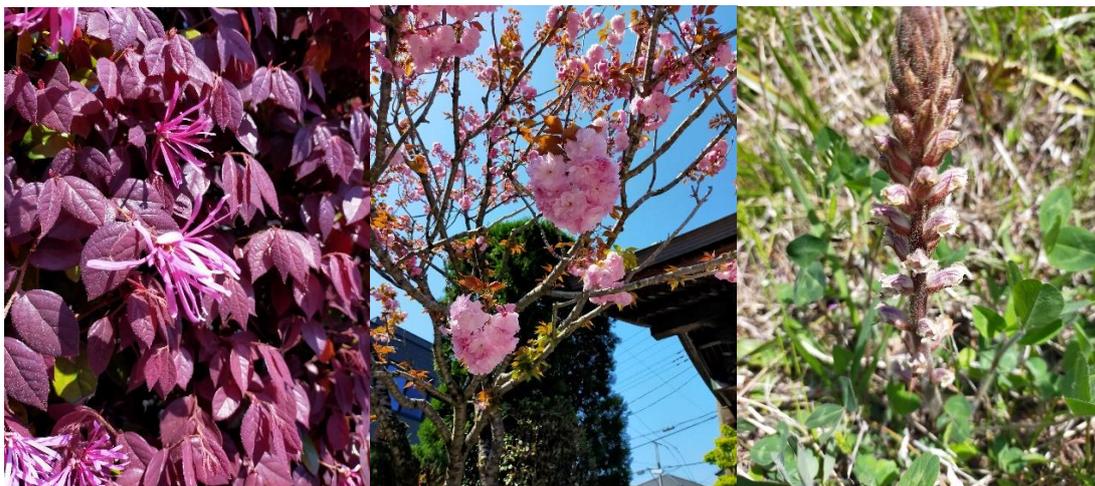
ハイキングコースから外れた道にまとまって見られた。

⑨アオキ (アオキ属)

雄株と雌株のチョコレート色の小さな目立たない花の違いを観察。

⑩ツルカノコソウ (カノコソウ属)

1 週間前の下見時には紅色を帯びたツボミだったのに本番では散房花序の白い漏斗状の花が湿った沢沿いで多く見られた。



トキワマンサク

ヤエザクラ

ヤセウツボ

⑩ヤブニンジン (ニンジン属)

ツルカノコソウと同じような湿った場所で複葉の柔らかな葉の間から散形花序の白い2mmぐらいの花がかたまつて咲く。名前はイマイチですが花は清楚で全体が柔らかで綺麗です。

⑪ニリンソウ (イチリンソウ属)

ニリンソウを見ながら花の特徴を説明する。一度に二輪は咲かず、2つ目の花は約7日後に開花する。自家不適合性 順に花が咲くのはハイリスクハイリターンをしない。結実率は第一花が高い 2個の柄がある根出葉と白いガク片の下に3個の柄がない総苞が有る。花弁はなくて白いガクは4~7枚。雄蕊は多数で50本ぐらい 雌蕊9個前後で蜜はない送粉者はハナバチ ハナアブ ハエ ミドリニリンソウは先祖がえりして生まれた。ガクは葉から進化した。

●ニリンソウの萼片の数が違う理由

花の器官<萼片や花弁>は葉を基本形とした器官と推定される 葉は茎の周りに螺旋状に並び、葉と茎の集合体をシュートと呼び花はシュートが、特殊化した物 原始的な性質を持つ植物は萼片や花弁などの花の器官が、螺旋状に並ぶ性質を残すことが多く数が厳密に決まっていない キンポウゲ科だけでなくモクレン科も、花弁、雄蕊、雌蕊が一定しない。



ニリンソウ

オニグルミ

⑫ハナイカダ (ハナイカダ属)

葉の上の花を見て4本の雄蕊の有る雄花と中心に雌蕊のある雌花の違いを確認する。

●花粉について

今日の観察会ではアオキ、ハナイカダ、コクサギなど雌雄異株の花を観察したので花粉の飛散について。

百花の花粉は風に飛ぶか昆虫が運ぶ 自分に適合した花粉のみ受精し、適合しない花粉は受け付けない 不適合性 自家不適合性 受粉~受精 雌蕊の柱頭に花粉の付着 花粉の大きさは 25~100 μ オシロイバナ 220~250 μ マンネングサ 10 μ ワスレナグ

サ3 μ といろいろあり、形は球、楕円、角 柱頭のサイズや形状もいろいろで異なる花粉は柱頭に付着できず花粉管を伸ばすことが出来ない。

●羽村神社からの眺望

眼下には緩く蛇行した多摩川が流れ、右遠方に狭山丘陵、円柱形の配水塔、根がらみ水田、市役所等が綺麗に確認された。その中を五ノ神崖線、美原崖線、小作崖線、根がらみ崖線が樹木の帯として見る事が出来た、崖線だからこそ今は自然のオアシスとなっています。



羽村神社からの眺望

⑬ヒメウツギ（ウツギ属）

お昼を食べた浅間岳のベンチの後ろに植刺されたのではないかとと思われる満開のヒメウツギが見られた。数多くのウツギ類の中でいち早く白い花を付ける。



根がらみ前水田

⑭オドリコソウ（オドリコソウ属）

踊子草公園の雑木林の中にナカナカ見られなくなった在来種のオドリコソウが群がって咲いていた。背丈は40c前後と全体はしなやかな感じで薄紅色の花が見ごろ。

何故か黄色い花を付ける外来種のツルオドリコソウも植栽されていた。

公園入口のエノキは樹冠も広く羽村市の天然記念物に指定されても良いような巨樹。



オドリコソウ



ツルオドリコソウ



エノキ



エノキ

午後は午前と同じ羽村堰下橋（幅2.1m 長さ267m）を通り「チューリップまつり」が実施されている根がらみ前水田を通り住宅内の庭の花を見ながら羽村駅へと向かいました。

今日も一日、お疲れ様でした。来月は5月9日（日）東青梅です。（越前記）